

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	1	琉球政府関係文書デジタル・アーカイブ事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア-⑤			
担当部課名	総務部総務私学課	事業実施 (予定)年度	H25 ~ R13 年度	歴史資料の保存・編集・活用			
事業内容	県民等が琉球政府関係文書に対する理解を深めるため、琉球政府関係の紙文書・資料(劣化の激しい資料は、デジタル化の前に修復)をデジタル化し、ホームページで公開する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	216,437		225,178		116,864
		(b)予算現額	225,016		227,266		116,864
		(c)増減額(b-a)	8,579		2,088		0
		(d)前年度繰越額	0		0		0
		A. 計(b+d)	225,016		227,266		116,864
	B. 執行済額		224,835		227,209		116,630
	うち交付金充当額		179,868		181,767		93,304
	C. 次年度繰越額		0		0		0
	執行率(%) (B/A)		99.9%	#DIV/0!	100.0%	#DIV/0!	99.8%
予算の状況の説明		執行率は99.8%であり、計画的に執行できた。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	デジタル・データの作成	目標	11,000簿冊	11,000簿冊	12,000簿冊	3,000簿冊	
		実績	11,016簿冊	11,010簿冊	12,049簿冊	3,006簿冊	
	個人情報の確認・マスキング	目標	22,500簿冊	22,000簿冊	27,236簿冊	5,500簿冊	
		実績	33,031簿冊	34,050簿冊	37,663簿冊	6,579簿冊	
	インターネット公開	目標	17,000簿冊	19,000簿冊	28,272簿冊	4,000簿冊	
		実績	18,497簿冊	21,728簿冊	38,760簿冊	6,214簿冊	
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル・データの作成は、事業の進捗を定期的に確認し、目標値を達成した。</li> <li>簿冊に含まれる個人情報の確認とマスキング処理について、目標値を達成した。</li> <li>インターネット公開についても、目標値を達成した。</li> </ul>					
	成果目標 (指標) 及び達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度
①公開したホームページの年間アクセス数		目標		33,000アクセス	40,000アクセス	43,000アクセス	
		実績		38,325アクセス	36,555アクセス	47,029アクセス	
②琉球政府文書に対する理解が深まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する		目標		80%	80%	80%	
		実績		89%	83%	79%	
達成状況説明		<p>①閲覧された資料数は目標を上回る実績を達成。沖縄の日本復帰50周年という節目の年に、復帰前の沖縄を振り返る機会を多くの県民等へ提供できた。公開サイトでの特別展や世界のウチナーンチュ大会出展等の広報活動の効果もあったと考える。</p> <p>②琉球政府関係文書に関する理解の深まりは、サイト利用者の満足度を参考にしている。アンケートの結果では目標をわずかに下回っているため、引き続き、理解しやすさ、利用しやすさの向上を図っていく。</p>					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①戦後の米国統治下にあった沖縄について、多くの住民が様々な角度から理解を深めるために、デジタルアーカイブコンテンツをより一層充実させていく必要がある。</p> <p>②今年度から公開開始した琉球列島米国民政府(USCAR)文書は、統治者側の考えがわかる貴重な文書だが、英語で書かれていることもあり、一般には利用されにくく利用者層が限られている。</p>	<p>①これまでは県公文書館が所蔵する琉球政府文書やUSCAR文書のデジタルアーカイブを進めているが、復帰から50年以上経過した現在、当時の貴重な記録を失うリスクも高まっており、未所蔵の歴史公文書の収集に取り組む必要がある。</p> <p>②USCAR文書の要旨説明やキーワード等を目録情報の充実及び文書を理解する上で参考になるガイドコンテンツの充実を引き続き行っていく。</p>
今後の取り組み方針		
<p>①米国統治下の重要な行政活動が記録された公文書について、国や市町村等を対象に現存調査を行い、その結果を踏まえて積極的に収集し、デジタルアーカイブコンテンツを充実させていく。</p> <p>②USCAR文書をはじめ、一般に馴染みのない公文書の利用拡大を図るには、これまでの一般向け広報活動に加え、テレビや新聞等のマスメディア、学校や図書館等の教育機関等と連携し、公文書を素材にした2次利用(番組や教材など)を促進する取り組みを行っていく。</p>		

資金の流れ							
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)							
	総事業費	交付対象事業費	うち交付金 充当額	うち県 負担金	うち市町村 負担金	その他	交付対象外 経費
	116,630	116,630	93,304	23,326	0	0	0
<p>沖縄県 交付対象 事業費 116,630千円</p>	<pre> graph LR     A[沖縄県 交付対象事業費 116,630千円] -- 委託料 116,630千円 --&gt; B["(株)Nansei 44,558千円 (デジタル化業務)"]     A -- 委託料 116,630千円 --&gt; C["(公財)沖縄県文化振興会 54,164千円 (公開データ作成、インターネット公開業務)"]     A -- 委託料 116,630千円 --&gt; D["(公財)沖縄県文化振興会 17,908千円 (劣化資料のデジタル化及び修復業務)"]     B -- 委託料 11,933千円 --&gt; E["(株)凸版印刷 7,588千円 (デジタルデータの作成)"]     B -- 事務費、事業費 32,625千円 --&gt; F["紙修復保存工房 4,345千円 (劣化資料の修復)"]     </pre>						
資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明			
○	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託事業者は、業務内容により、一般競争入札や実績、専門性や知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。			
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。					
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目・使途については、事業報告書等を検査し、適正である事を確認した。			
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。					

令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2	在米沖縄関係資料収集公開事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア-⑤			
担当部署名	総務部総務私学課	事業実施(予定)年度	H29 ~ R9 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	歴史資料の保存・編集・活用		
事業内容	県民等が沖縄戦及び米国統治時代等の沖縄関係資料に対する理解を深めるため、米国国立公文書館に所蔵されている沖縄関係の資料(写真や動画を含む)を収集し、翻訳・整理を行い、県民等の利用に供する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	24,263		15,522		13,970
		(b)予算現額	5,998		10,152		8,197
		(c)増減額(b-a)	▲ 18,265		▲ 5,370		▲ 5,773
		(d)前年度繰越額	0		0		0
		A. 計(b+d)	5,998		10,152		8,197
	B. 執行済額		5,998		10,109		6,732
	うち交付金充当額		4,798		8,087		5,385
	C. 次年度繰越額		0		0		0
	執行率(%) (B/A)		100.0%		99.6%		82.1%
予算の状況の説明		・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、R元年度まで一般競争入札で契約していた業者が米国から撤退したため、年度始めは一般競争入札参加者がおらず、不調となったが、10月に米国の入国制限が緩和されたタイミングで再度入札を実施し、事業規模を縮小したうえで事業を実施した。 ・契約期間が4か月となったため、予算の執行残が生じた。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	対象資料(写真や動画を含む)の収集、翻訳整理の実施	目標	収集、整理する	収集、整理する	収集、整理する	1,200点	
		実績	6,260点	0点	0点	1,678点	
	収集資料の目録整備とネット公開	目標		一部公開する	一部公開する	1,140点	
実績			公開検証した	公開検証した	1,678点		
進捗状況説明	・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、年度前半は米国国立公文書館の利用ができなかったが、11月から事業を再開し、収集した写真について個人情報利用制限等の審査を行う等公開用データを作成し、ホームページで公開した。						
成果目標(指標)及び達成状況	R4成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(〇〇年度)
	①閲覧された資料数(pv※) *資料掲載ページの閲覧回数	目標			241,000pv	250,000pv	
		実績			490,229pv	1,267,133pv	
	②在米沖縄関係資料に対する理解※ ※サイト利用者アンケートの満足度	目標			80%	80%	
		実績			78%	82%	
達成状況説明	①目標を大きく上回る実績を達成。沖縄の日本復帰50周年という節目の年に、復帰前の沖縄を振り返る機会を多くの県民等へ提供できた。 ②目標を上回る実績を達成。(資料に対する理解の深まりは、写真、空中写真、動画を閲覧した利用者に対するアンケート結果の満足度を参考にしている。)						

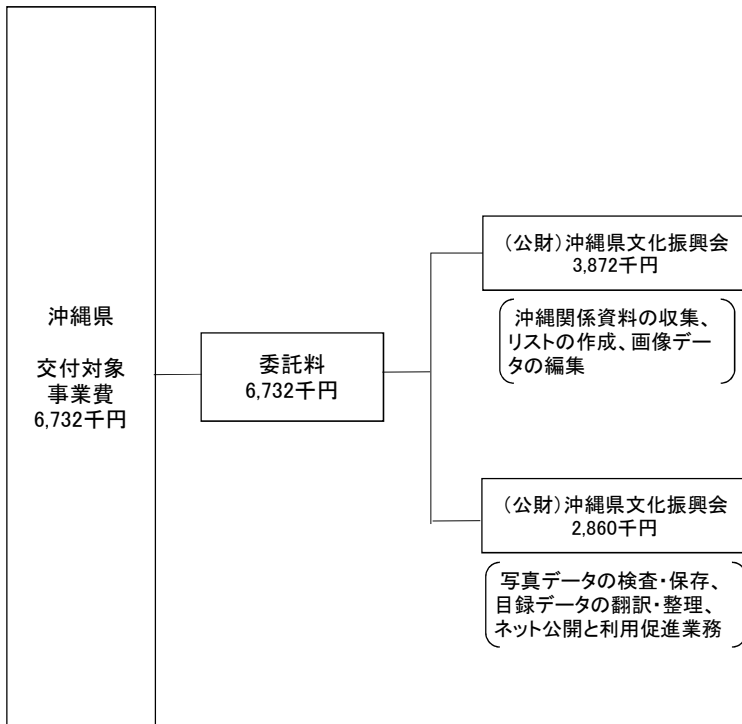
推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
<b>取組の検証</b> ①収集業務においては、米国国立公文書館(収集元)の新型コロナ等による利用制限や空席状況等が計画の進行に影響する。 また、空中写真や動画のデジタル化は、米国国立公文書館が指定する専門業者に委託する必要があること、必要経費も円安の影響を受けること等、不確実な要因が多くある。 ②公開業務においては、検索機能や表示機能について、利用者アンケートからは使いづらい点が指摘されており、課題が残る。	①計画どおりに資料が収集できるよう、適宜米国国立公文書館の利用状況や利用環境(貸出申請の制限)の確認を行う等、県、公文書館指定管理者と情報収集・共有を徹底し、事業を推進する必要がある。 ②公開資料については、多様な利用を促進するため資料閲覧状況や利用者アンケートを参考に分析する。また検索機能の充実を図り、理解促進に繋がる取組みを行う。

**今後の取組み方針**

①公開に向けた写真・動画の収集のため、米国国立公文書館の利用状況や利用環境の確認を行う等、情報収集・共有を徹底し、利用状況に応じた対応策について、引続き県、公文書館指定管理者及び事業受託者との協力体制を構築していく。  
 ②資料の公開に関しては、資料閲覧状況及び利用者アンケートを参考に分析する等、利用拡大に繋げるため県民等への効果的な周知内容等の検討とその実施に取り組む。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
6,732	6,732	5,385	1,347	0	0	0

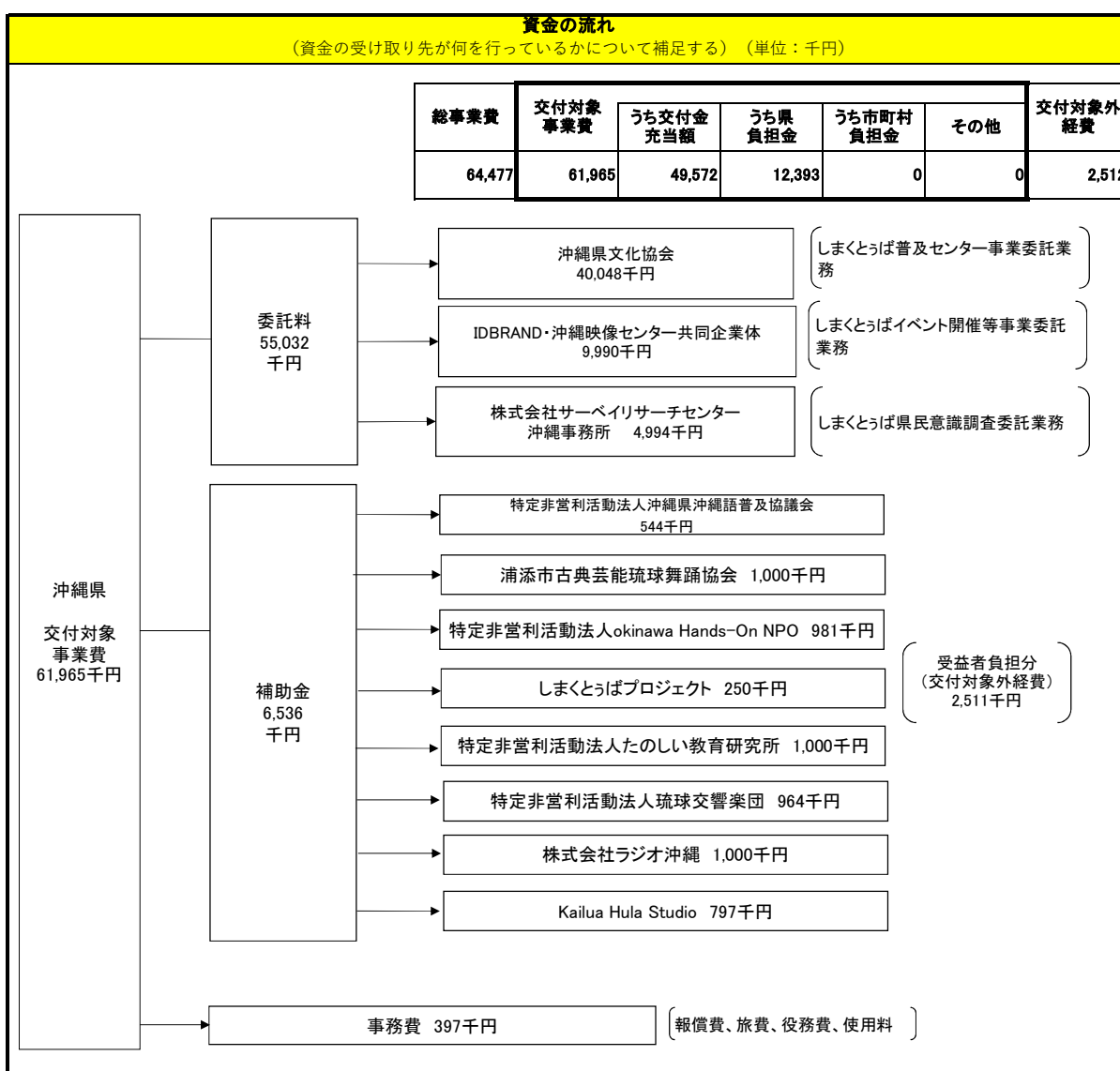


資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 目・	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、業務内容により、一般競争入札や実績、専門性や知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業報告書等を検査し、適正である事を確認した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	157	しまくとぅば普及継承事業		新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア-①		
担当部署	文化観光スポーツ部 文化振興課	事業実施(予定)年度	H 26 ~ R13 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄文化の保存・継承・創造と更なる発展 Ⅲ-3-(2)		
事業内容	しまくとぅばの普及・継承を図るため、以下の取組を実施する。 ・普及センターの運営、人材養成講座の実施、民間への補助、読本の配布など、各地への普及促進の取組を行う。 ・普及推進専門部会、県民意識調査により取組みの効果検証を行う。 ・県民大会（功労者表彰）、普及イベント開催等の気運醸成の取組を行う。						
効果発現年度	■当年度 ■後年度（ R5 年度）						
実施方法	□直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額【単位：千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	99,776		94,806		70,032
		(b) 予算現額	99,776		94,806		70,032
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	99,776	0	94,806	0	70,032
	B. 執行済額		87,783		85,988		61,965
	うち交付金充当額		70,226		68,790		49,572
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		88.0%	#DIV/0!	90.7%	#DIV/0!	88.5%
予算の状況の説明		・執行率は88.5%であり、不用は主に委託料、補助金の執行残のほか、旅費、需用費の執行残による。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	講師養成講座修了生	目標	-	-	-	30人	
		実績	106人	42人	85人	64人	
	補助金の交付を受けた民間事業者等による講座、教材作成、イベントの実施等の実施(民間団体への補助数)	目標	10件	10件	10件	10件	
		実績	14件	7件	8件	8件	
	新規「しまくとぅば普及推進計画」の策定	目標	-	-	-	1件	
実績		-	-	-	1件		
進捗状況説明	・講師養成講座修了生は65名で、目標を達成した。 ・民間団体への補助については、申請が13件のうち、選定委員会で採択された事業が8件であった。 ・しまくとぅば普及推進計画(第2期計画)を令和5年3月に策定した。						
成果目標(指標)及び達成状況	R4成果目標(指標)		基準値(R1年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値
	養成した講師による派遣事業10件及び問い合わせ対応50件	目標	-	-	-	10件、50件	-
		実績	-	-	-	20件、119件	-
	検定受検者数	目標	-	-	-	1200人	-
		実績	390人	869人	1,114人	922人	-
	イベント参加者数	目標	-	-	-	1,000人	-
		実績	820人	-	176人	687人	-
【R6 成果目標】しまくとぅばを挨拶程度以上話せる人の割合		目標				35%	
達成状況説明	・養成した講師による派遣数は、20件で目標を達成した。また、問い合わせ対応は目標50件に対して、119件で目標を達成。 ・検定受検者数は、目標値に対して76.8%の達成率であった。						

推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
<b>取組の検証</b> ・内閣府による沖縄振興計画の総点検結果である「沖縄振興の現状と課題」においては、「主な取組の評価(⑥文化関連)」のなかで、「しまくとぅばの保存・普及・継承に向けたソフト交付金によるしまくとぅば普及センターの設置・運営等の取組が進められているものの、しまくとぅばをあいさつ程度以上、話す人の割合に改善が見られないことから、これらの取組については改善・見直しの検討が必要であると考えられる。」との指摘がある。 ・令和4年度の「しまくとぅば県民意識調査」によると、「しまくとぅばを挨拶程度以上使う」人の割合(39.0%)をはじめ、その他多くの調査項目において、R3年度より増加した結果となり、本事業の取組の効果が一定程度生じていると考えられる。	・しまくとぅば普及センターによる取組については、しまくとぅば講師養成講座開催、同講座で養成された講師の派遣事業及びしまくとぅば検定など、地域に密着・連携した取組に重点化し、それを総括する窓口機能に注力するなどの取組の見直しを行い、県民がしまくとぅばを聞く機会・話す機会の創出に繋げ、しまくとぅばを話す人の割合の向上を図る。 ・また、しまくとぅば保存のためのアーカイブ化の取組として、しまくとぅば普及促進事業費補助金事業において、新たに「しまくとぅばに関するテキストや研究文献の発行等、各種文字資料の充実等、保存に資する取組」を公募の対象なる事業に含める。
今後の取り組み方針	
令和4年度の「しまくとぅば県民意識調査」結果を踏まえ、令和5年度から始める「しまくとぅば普及推進計画(第2期計画)」に基づき、人材養成等の取組や、しまくとぅば普及に取り組む団体への支援を実施するなど、普及に向けた取組を実施するとともに、しまくとぅば保存のためのアーカイブ化、さらに継承への取組として、子供の発達段階に応じたしまくとぅば教育の方向性を検討するなど様々な取組を実施し、しまくとぅばの普及継承に取り組んでいく。	



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価 点 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先及び補助事業者については、実績やノウハウなどを勘案した上で選定しており、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	・補助事業については、NPOなどが主な補助先であるが、補助率は8割で2割は自己負担としており負担関係は妥当であると考えられる。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・委託額や補助額を確認するときには、事業目的達成の観点から、必要な経費だったかなどを検査した結果、適正だったと認められた。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	160 しまくとぅばアーカイブ事業		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア-①			
担当部署名	文化観光スポーツ部文化振興課	事業実施(予定)年度	R4 ~ R8 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	沖縄文化の保存・継承・創造と 更なる発展  Ⅲ-3-(2)		
事業内容	沖縄文化の基層である「しまくとぅば」を次世代へ継承するため、しまくとぅばのアーカイブ化の取組みを行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和5年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:千円】	予算の状況	(a)当初予算額				22,500	
		(b)予算現額				22,500	
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	
		(d)前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	0	0	0	22,500	
	B. 執行済額					12,389	
	うち交付金充当額					9,911	
	C. 次年度繰越額				0	0	
	執行率(%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	55.1%
	予算の状況の説明		・執行率は55.1%であり、不用は主に旅費、謝金の執行残による。 ・旅費については、新型コロナウイルス感染症の関係で、予定していた県外調査員の派遣の多くを受託者である琉球大学の研究者により対応したことによる減。				
活動目標(指標)及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	文法調査票の収集	目標	-	-	-	44冊	
		実績	-	-	-	44冊	
	文法調査票と連動した教材ひな形(小学校中学年)の作成	目標	-	-	-	1セット	
		実績	-	-	-	1セット	
	教科書掲載の歌、文学的文章の収録	目標	-	-	-	49曲、49編	
		実績	-	-	-	50曲、50編	
	自然談話の収録	目標	-	-	-	2話	
		実績	-	-	-	2話	
進捗状況説明	文法調査票の収集数、教科書掲載の曲数等仕様で求めている成果は、目標のとおり達成しているが、調査対象地域については、予定していた地域の話者が高齢で対応が困難であることが、事業を進める上で明らかになったことにより、一部地域を変更している地点もある。						

成果目標 (指標) 及び達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (6年度累計)
			目標	実績	目標	実績	目標
文法調査票の収集		目標	—	—	—	44冊	132冊
		実績	—	—	—	44冊	132冊
文法調査票と連動した教材ひな形(小学校中学年)の作成		目標	—	—	—	1セット	3セット
		実績	—	—	—	1セット	3セット
教科書掲載の歌、文学的文章の収録		目標	—	—	—	49曲、49編	147曲、147編
		実績	—	—	—	50曲、50編	150曲、150編
自然談話の収録		目標	—	—	—	2話	6話
		実績	—	—	—	2話	6話
達成状況説明	<p>文法調査票の収集数、教科書掲載の曲数等、仕様で求めている成果は、目標のとおり達成しているが、調査対象地域については、予定していた地域の話者が高齢で対応が困難であることが、事業を進める上で明らかになったことにより、一部地域を変更している地点もある。</p>						

R4-No.160

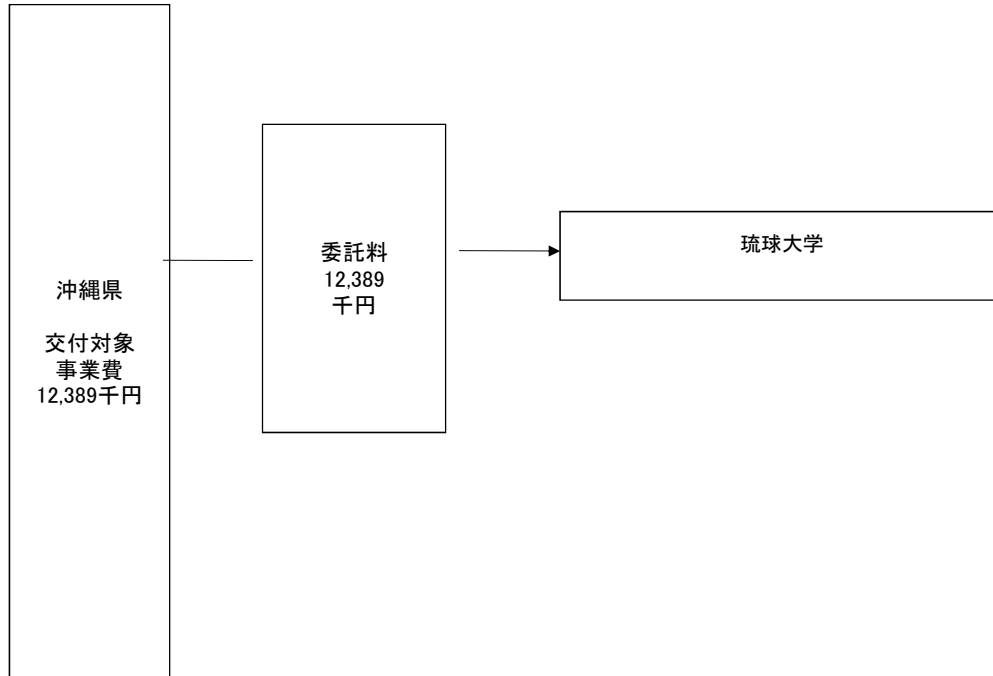
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
		<p>文法調査票の収集数、教科書掲載の曲数等、仕様で求めている成果は、目標のとおり達成しているが、調査対象地域については、予定していた地域の話者が高齢で対応が困難であることが、事業を進める上で明らかになったことにより、一部地域を変更している地点もある。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>しまくとぅばアーカイブについては、文法調査法や収録する歌、文学的文章のしまくとぅばへの文法的な精査も含めた自然談話の文字化等、言語学的な専門知識が求められることに加えて、話者が減少しつつある現状では、地域との信頼関係に基づく早期の調査が求められる。 今後においても、調査を進める上で収集予定地域の変更等が必要となってくる場合も想定されるため、県、受託先の琉球大学、調査対象地域の話者と連携体制を強化する。</p>		



資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象 事業費	交付対象事業費の内訳				交付対象外 経費
		うち交付金 充当額	うち県 負担金	うち市町村 負担金	その他	
12,389	12,389	9,911	2,478	0	0	0



資金 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	<input type="radio"/>	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先については、実績やノウハウなどを勘案して選定しており、妥当であった。 ○委託額を確認するときには、事業目的達成の観点から、必要な経費であったかなどを検査した結果、適正であったと認められた。
	<input type="radio"/>	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	<input type="radio"/>	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	<input type="radio"/>	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	161 沖縄食文化保存普及継承事業		新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-7-③			
担当部署名	文化観光スポーツ部文化振興課	事業実施(予定)年度	R4 ~ R8 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	伝統文化の保存・継承・発展 III-3-(2)		
事業内容	沖縄の伝統的な食文化の保存・普及・継承を図り次世代へ継承するとともにユネスコ無形文化遺産登録へ向けて取り組む。 ・琉球料理伝承人の育成・フォローアップ ・出前講座モデル事業の実施 ・普及啓発ツールの作成(学校、観光客等) ・HPでの情報発信等を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額					21,250
		(b)予算現額					21,250
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額					
	A. 計(b+d)		0	0	0	0	21,250
	B. 執行済額						19,537
	うち交付金充当額						15,629
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	91.9%
予算の状況の説明		・沖縄の伝統的な食文化の保存・普及・継承を図り次世代へ継承するため、令和4年度から新規事業として、担い手の育成及び情報発信に要する経費として委託料等を計上した。 ・執行率91.9%であり、主に委託料の実績減によるものである。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	担い手育成講座の開催	目標				年1回全30時間	
		実績				30時間	
	出前講座モデル事業の実施	目標				年5件	
		実績				5件	
	沖縄の食文化に関する普及啓発(ガイドブック等)5000部作成・配布	目標				5,000部	
		実績				8,000部	
	HP運用	目標				運用を行う	
		実績				運用を行った	
進捗状況説明	・担い手育成講座について、調理師又は栄養士の資格を有し、実務経験が10年以上ある等の一定の要件を満たす応募者13名を対象に全30時間の講座を実施した。 ・出前講座モデル事業について、学校関係者、食関連業界団体等、県内地域住民、県外沖縄関連事業者及び修学旅行関係者向けにそれぞれ各1回、合計5回実施した。 ・ガイドブック等の作成・配布について、日本語6,000部、英語1,400部、スペイン語300部及びポルトガル語300部合計8,000部を作成し、沖縄の産業まつりや県外での沖縄フェア等合計6イベント及び担い手育成講座を受講した琉球料理伝承人等を通じて配布を行った。						

成果目標 (指標) 及び達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (〇〇年度)	
	琉球料理传承人の育成・フォローアップ	目標					10人	
		実績					53人	
	出前講座モデル事業目標参加人数	目標					100人	
		実績					145人	
	食文化HPページビュー	目標					50,000件/年	
実績						81,183件/年		
達成状況説明	<p>・琉球料理传承人の育成・フォローアップについて、新たな担い手を13名育成するとともに、既存の琉球料理传承人36名に対し知識及び技能向上を図るフォローアップ講座を実施し、琉球传承人に対し育成を行う講師を4名認定しており、目標を達成した。</p> <p>・出前講座モデル事業目標参加人数について、学校関係者向け65名、食関連業界団体等向け16名、地域住民向け26名、県外沖縄関連事業者向け30名、修学旅行関係者向け8名、合計145人となり、目標を達成した。</p> <p>食文化HPページビューについて、5万件の目標に対し、約8万1千件となっており、目標を達成した。</p>							

R4-No.161

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>沖縄の伝統的な食文化は若い世代を中心とした伝統料理離れが進み失われつつある中、沖縄の伝統的な食文化に関する認知度は以前低いままとなっている。</p>	<p>若い世代を含む県民、観光客に向けて沖縄の伝統的な食文化について普及促進を図り、認知度向上へ繋げる必要がある。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>令和5年度は「琉球料理が味わえる店」(仮称)認証制度が開始するため、当制度のPRと併せて、沖縄の伝統的な食文化について、传承人活動を強化するなどこれまで以上にPR活動に尽力する。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費

<p>沖縄県 交付対象事業費 19,537千円</p>	<p>委託料 19,121千円</p>	<p>丸正印刷株式会社 264千円</p> <p>一般社団法人 琉球料理保存協会</p> <p>丸正印刷株式会社・一般社団法人トータルウエルネスプロジェクトオキナワ・株式会社サーベイリサーチセンター沖縄事務所 共同企業体 10,998千円</p>	<p>WEBサイト保守管理業務委託</p> <p>琉球料理传承人の育成・フォローアップ及び出前講座等モデル事業実施にかかる業務委託</p> <p>店舗認証制度の制度化検討及び琉球料理のPR等にかかる業務委託</p>	<p>事務費 416千円</p> <p>旅費、役員費</p>
-------------------------------------	-------------------------	---	---	--------------------------------

資金の流 れ、費 目 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定方法は、特命随契及び企画提案プロポーザル等、委託内容毎に適当な選定方法により選定し、いずれも妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○費目・用途については、額の確定時に必要な経費であったか支出等に関する書類により確認しており、適正であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	162	琉球王国文化遺産集積・再興事業		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア-④		
	文化観光スポーツ部文化振興課 (博物館・美術館)		事業実施 (予定)年度		H27 ~ R11 年度	文化の保存・活用	
担当部課名				沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(3)		
事業内容	模造復元対象となる文化遺産を選定するための調査研究						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和10・11年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算の 状況	(a)当初予算額	76,983		73,113		16,144
		(b)予算現額	70,834		73,113		16,144
		(c)増減額(b-a)	▲ 6,149	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額	0		0		0
		A. 計(b+d)	70,834	0	73,113	0	16,144
	B. 執行済額		65,589		64,995		14,802
	うち交付金充当額		52,471		51,996		11,841
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		92.6%	#DIV/0!	88.9%	#DIV/0!	91.7%
予算の状況の説明		執行率は、91.7%であり、主に旅費の執行残が発生した。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	復元候補資料及び関連資料の調査(35件)		目標	-	-	-	35件
			実績	-	-	-	179件
進捗 状況 説明	・監修者会議等による有識者からの意見等を反映して、復元候補資料及び関連資料の調査を8分野で179件実施し、目標を達成した。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (H27年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (R10・11年度)
	復元候補の選定(35件)		目標	-	-	35件	-
			実績	-	-	179件	-
	【R10成果目標】 復元資料完成及び展覧会実施		目標				復元資料延べ35件 展覧会1回
	【R11成果目標】 展覧会実施		目標				展覧会2回
	達成 状況 説明	・監修者会議等による有識者からの意見等を反映して、復元候補を179件選定し、目標を達成した。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
<b>取組の検証</b> ・絵画・木彫・石彫・漆芸・陶芸・染織・金工・楽器の8分野において、琉球王国文化の体系化を図るためには、多くの資料が模造復元対象になることが明確化した。 ・模造復元に関して、昨今の社会情勢の変化による原材料の枯渇や高騰に留意した原材料の確保が必要である。また、工芸関係者や職人等の製作者の確保が課題である。 ・模造復元の製作工程等を広く紹介するための発信方法を工夫する必要がある。	・復元候補の中から、原材料や製作者の確保等を検討した上で優先順位をつけ、より実現性が高い模造復元対象資料を絞り込む必要がある。 ・模造復元の製作工程等を広く紹介するための効果的な発信方法を検討する必要がある。
今後の取り組み方針	
・令和5年度に模造復元対象資料を35件程度に絞り込み、令和6年度からの製作着手の準備をする。並びに模造復元に係る効果的な発信方法を検討する。	

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
14,802	14,802	11,841	2,961	0	0	0
<pre>                     graph LR                         A[沖縄県 交付対象事業費 14,802千円] --&gt; B[委託料 10,000千円]                         A --&gt; C[事務費 4,802千円]                         B --&gt; D["(一財)沖縄美ら島財団・(株)国建共同企業体 10,000千円"]                         C --&gt; E["報償費、旅費等"]                         D --- F["令和4年度琉球王国文化遺産集積・再興事業 基本設計委託業務 ・(一財)沖縄美ら島財団 ・(株)国建"]                     </pre>						

資金の流 れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業は、企画提案プロポーザルにて事業者を選定し、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、額の確定時において支出関係書類により確認し適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	188	琉球王国外交文書等の編集刊行及びデジタル化事業		新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア-⑤			
担当部署	教育庁文化財課	事業実施(予定)年度	H24 ~ R13 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	歴史資料の保存・編集・活用			
事業内容	県民等の琉球王国交流史に対する理解を深めるため、琉球王国外交文書「歴代宝案」等、交流史資料の編集刊行を進めるとともに、これら資料のデジタル化・ウェブサイトでの公開を行う。							
効果発現年度	■当年度 ■後年度 (令和6年度)							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ( )							
予算額・執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度		
	予算の状況	(a)当初予算額	57,860		56,700		35,654	
		(b)予算現額	57,860		56,700		35,654	
		(c)増減額(b-a)	0		0		0	
		(d)前年度繰越額	0		0		0	
		A. 計(b+d)	57,860		56,700		35,654	
	B. 執行済額		50,416		49,998		31,220	
	うち交付金充当額		40,333		39,999		24,976	
	C. 次年度繰越額		0		0		0	
	執行率(%) (B/A)		87.1%		88.2%		87.6%	
予算の状況の説明		・執行率は87.6%であり、主に会計年度任用職員の欠員による報酬および費用弁償、新型コロナウイルス感染症蔓延にともなう外国出張中止による特別旅費の執行残によるものである。						
活動目標(指標)及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況					
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度		
	①琉球王国交流史関係の企画展、講座等の実施回数	目標	-	-	-	1回		
		実績	-	-	-	8回		
	②琉球王国交流史ウェブサイトのコラム・資料等公開件数	目標	-	-	-	200件		
		実績	-	-	-	1,004件		
	③琉球王国交流史に関するウェブ教材作成数	目標	-	-	-	3件		
実績		-	-	-	3件			
進捗状況説明		・歴代宝案訳注本全15冊刊行記念シンポジウム1回及び連続講座5回、企画展示1回、パネル展示1回、計8回の催事を実施した。琉球王国交流史デジタルアーカイブでは、歴代宝案訳注本ほか交流史資料のデジタル資料を997件、コラム4件、ウェブ(デジタル)教材を3件(作成含む)、計1,004件を公開した。						
成果目標(指標)及び達成状況	R4成果目標(指標)		基準値(H24年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(R5年度)	
	①琉球王国交流史関係の企画展、講座等参加者数	目標	-	-	-	200人	200人	
		実績	-	-	-	340人	-	
	②ウェブサイトへのアクセス件数	目標	-	-	1,760件	5,280件	5,991件	
		実績	-	-	4,424件	8,945件	-	
	③琉球王国交流史に関するウェブ教材ダウンロード数	目標	-	-	-	44件	91件	
		実績	-	-	-	41件	-	
	【R3 成果目標】閲覧者のうち、琉球王国外交文書(「歴代宝案」等)に対する理解が深まったか(80%)を含め、当該事業のあり方をアンケートで検証する		目標	-	-	80%	-	-
	【R3以前の成果目標】歴代宝案の刊行2冊		目標	-	3冊	-	-	-
			実績	-	6冊	-	-	-
【R3以前の成果目標】中琉歴史関係檔案の刊行3冊		目標	-	3冊	-	-	-	
		実績	-	3冊	-	-	-	
【R3以前の成果目標】琉球王国関係資料のデジタル化		目標	-	500枚	-	-	-	
		実績	-	751枚	-	-	-	
達成状況説明		①琉球王国交流史関係の企画展、講座等参加者数は、「歴代宝案訳注本全15冊刊行記念」連続講座5回、記念シンポジウム1回への来場者が340人となり、目標を達成することができた。 ②琉球王国交流史資料デジタルアーカイブのウェブサイトへの1年間のアクセス数(令和4年4月1日～令和5年3月31日)が8,945件に達し、目標を達成することができた。 ③琉球王国交流史に関するウェブ(デジタル)教材ダウンロード数は、実績が41件で未達成となっている。達成できなかった主な要因は、教材作成に予測以上に時間を要した結果、ホームページ掲載が年度末となり、閲覧期間が短期間になってしまったことによる。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①ウェブサイトの利用者を増やすためには、デジタル公開資料をさらに充実させる必要がある。 ②琉球王国交流史理解のための、幅広い年齢層に対応できる、分かり易い内容の展示や講座を企画するのが課題である。 ③令和4年度は、デジタル教材として素材以外にも指導案や提示資料なども作成したが、これらの授業実践に必要な補助資料の作成には、学習指導要領の知識や授業実践スキルなどの専門的な知識・経験が求められる。	①定期的な資料公開を目指し、公開する交流史資料の検討、デジタル化を計画的に進める必要がある。 ②県民が必要としている情報を的確に把握する必要がある。 ③デジタル教材の作成においては、素材(題材)開発は当課において行い、その素材を用いた教育現場への普及については、学校現場とより密接な関係機関と連携するなどの工夫が必要である。
<b>今後の取り組み方針</b>		
①交流史資料のデジタル化の作業内容を十分に検討し、見直しが必要な工程は改善し、更なる効率化を目指す。 ②ウェブサイトや講座・展示会場などでのアンケート結果等を基に企画内容のさらなる改善を図る。 ③県立学校教育課や総合教育センターなどの関係機関と連携して、教員研修やワークショップ等の機会を利用し、教員と共に授業開発を行う機会を設ける。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

	総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費	
								31,761
沖縄県 交付対象事業費 31,220千円	報酬 11,499千円	会計年度任用職員5名 11,499千円 ( 歴代宝案編集委員に係る報酬 交付対象外経費 214千円 )						
	職員手当等 2,068千円	会計年度任用職員5名 2,068千円						
	共済費 2,162千円	会計年度任用職員5名 2,162千円		会計年度任用職員に係る地方公務員共済組合負担金、社会保険料、雇用保険料				
	報償費 1,407千円	歴代宝案編集協会会議 286千円 連続講座講師謝礼金 52千円 シンポジウム講師謝礼金 82千円 歴代宝案の原稿執筆料 897千円 デジタルアーカイブ原稿執筆料 90千円		・歴代宝案編集協会議構成員への謝礼金 ・歴代宝案訳注本全15冊刊行記念連続講座 ・歴代宝案訳注本全15冊刊行記念シンポジウム講師謝礼金 ・『歴代宝案の世界(仮)』の原稿執筆料 ・「琉球王国交流史デジタルアーカイブ」コラム原稿執筆料				
	旅費 561千円	職員旅費(県内) 3千円 会計年度任用職員通勤手当および出張旅費、講師旅費(県内) 558千円 ( 歴代宝案編集委員に係る旅費 交付対象外経費 327千円 )		・会計任用職員通勤手当通勤手当 ・県内出張旅費 ・連続講座およびシンポジウム等講師旅費				
	需用費 6,428千円	消耗品費 1,397千円 印刷製本費 5,031千円	(株)国際印刷 231千円 (有)ドリーム印刷 4,510千円 (株)Nansei 199千円 (株)アクセア 91千円		歴代宝案訳注本全15冊記念記念催事の歩ポスター印刷製本、歴代宝案補遺編2『歴代宝案』校訂本第2冊(活字本)の印刷製本、鎌倉芳太郎『歴代宝案』影印本の印刷製本、旧県立図書館本の印刷製本、歴史展示用パネル印刷			
	役務費 1,421千円	(株)琉球通運航空 983千円 日本郵便株式会社 438千円		『歴代宝案』等刊行物の配送、料金後納郵便				
	委託料 4,438千円	(株)国建システム 535千円 (株)Nansei 861千円 (株)Nansei 1,595千円 久永情報マネジメント(株) 979千円 (株)国建システム 398千円 比嘉孝子 70千円		琉球王国交流史・近代沖縄史料デジタルアーカイブ保守業務、歴代宝案訳注本第15冊等のデジタル化業務、那覇市歴史博物館所蔵旧県立図書館『歴代宝案』筆写本のデジタル化、『歴代宝案校訂第1冊(活字本)』本文のテキスト化業務、琉球王国交流史デジタルアーカイブの機能追加業務、琉球王国交流史デジタルアーカイブに掲載するデジタル教材の挿絵用イラスト制作				
	使用料及び賃借料 1,132千円	(株)沖縄エジソン 1,111千円 (株)琉球新報社 21千円		パソコンリース代金、記念シンポジウム関連新聞記事掲載料				
	備品購入費 104千円	沖縄県教科書供給(株) 60千円 (株)リプロプラス 44千円		書籍購入				

資金の流れ、費用点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は一般競争入札及び業務の特殊性・専門性・実績等を勘案し選定しており、妥当であった。 ○費用・用途については、業務報告書等を検査し、事業目的に即して適正に執行したことを確認した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	189	近代沖縄史料デジタル化事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-ア-⑤			
担当部課名	教育庁文化財課	事業実施 (予定)年度	H28 ~ R9 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	歴史資料の保存・編集・活用 Ⅲ-3-(3)		
事業内容	県民等による戦前の新聞の活用の利便性を高めるため、作成した画像データを追加公開しウェブサイトコンテンツのさらなる充実を図る。また、利用普及のためウェブ教材等の開発・公開を行う。						
効果発現年度	■当年度      ■後年度( R5 年度)						
実施方法	■直接実施    ■委託    □補助    □負担    □その他( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	20,480		20,067		21,418
		(b)予算現額	20,480		20,067		21,418
		(c)増減額(b-a)	0		0		0
		(d)前年度繰越額	0		0		0
	A. 計(b+d)		20,480		20,067		21,418
	B. 執行済額		16,888		17,122		17,811
	うち交付金充当額		13,510		13,698		14,249
	C. 次年度繰越額		0		0		0
	執行率(%) (B/A)		82.5%	#DIV/0!	85.3%	#DIV/0!	83.2%
予算の状況の説明		・執行率は83.2%であり、主に会計年度任用職員の1人の任用開始時期が4月から7月になったことによる人件費の執行残と、新型コロナウイルス感染症蔓延にともなう史料調査の未実施等による旅費の執行残が発生したことによるものである。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	①ウェブ教材等の作成・公開を行う(2件)。	目標	-	-	-	2件	
		実績	-	-	-	2件	
	②約5,000面について著作権処理等を行い、新たにウェブ公開する。	目標	-	-	-	約5,000面	
		実績	-	-	-	0面	
進捗状況説明	①沖縄の近代期について学ぶことのできる教材2件(「琉球処分」「分島問題」)を3月末に公開した。 ②新聞画像約5,000面について、不名誉な重大事件・事故等の個人情報のマスクングを行い、公開用画像の準備を完了した。また記事中の著作権者不明著作物約2万件について文化庁長官裁定制度申請手続きを進めたが、新たに調整事項が生じたため、年度中の公開に至らなかった。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (R5年度)
	①開設したウェブサイトへのアクセス件数 5,280件/年	目標	-	-	-	5,280件	-
		実績	-	-	-	8,945件	-
	②教材のダウンロード数	目標	-	-	-	23回	-
		実績	-	-	-	18回	-
	【R5成果目標】 開設したウェブサイトへのアクセス件数 5,880件/年		目標	-	-	-	5,880件
	【R5成果目標】 教材のダウンロード数(累計)		目標	-	-	-	84回
達成状況説明	開設したウェブサイトへのアクセス件数(2022年4月1日~2023年3月31日)は目標を達成した。3月末に近代沖縄に関する教材2件を公開したが、公開の遅れから目標とするダウンロード数には達しなかった。						

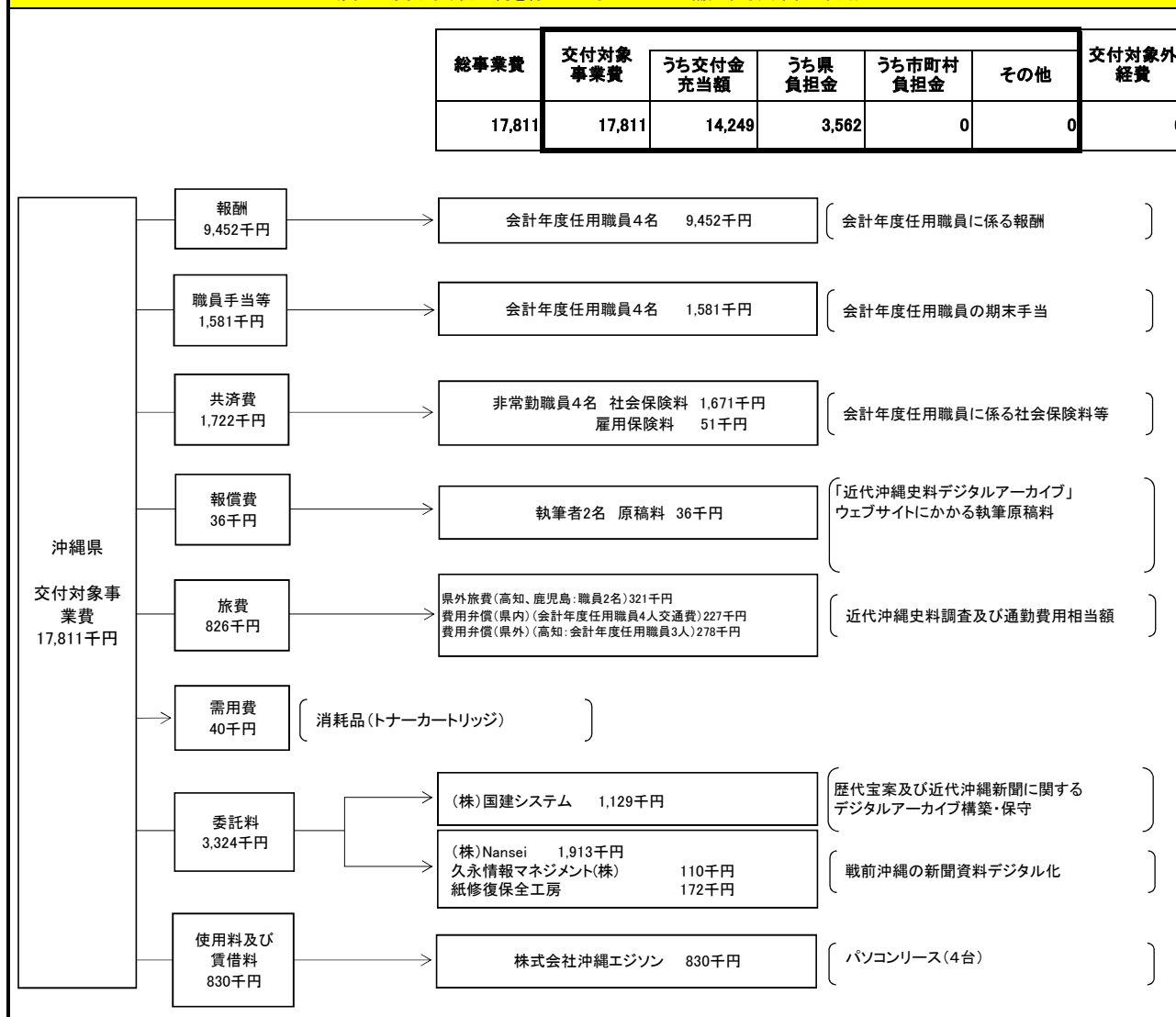


取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	①著作権の保護期間内にある記事や作品がある。 ②ウェブ公開により不名誉な重大事件・事故などに記載された個人情報、不特定多数にさらされることとなり、関係者の不利益が想定される。 ③ウェブサイトの活用(年間アクセス数)を維持する必要がある。	①新聞画像のインターネット公開に向け、著作権者のリストアップおよび著作権処理を行う必要がある。 ②不名誉な事件・事故等の個人情報のマスキングを行う必要がある。 ③ウェブコンテンツの充実を図る必要がある。

**今後の取り組み方針**

- ①著作者不明の著作物の使用について、著作権者への連絡や文化庁長官裁定制度への申請を行う。
- ②記事内容を確認し、不名誉な事件・事故等の個人情報をマスキングした画像データを作成する。
- ③沖縄近代史にかかるコラムや教材、公開資料を充実させる。
- ④データ量が多いため、令和5年度以降も人員の確保に努め作業を進める。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流し、点検、費目	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の流し、点検、費目	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は見積合わせ(5件)および随意契約(3件)で選定した。業務の特殊性・専門性の高さおよび委託金額もふまえ、各々妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業目的に即しており、額についても支出などに関する書類により確認し、適正であった。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	159 沖縄文化芸術の創造発信支援事業	新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-イ-③				
担当部署名	文化観光スポーツ部文化振興課	事業実施(予定)年度	R4 ~ R8 年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄文化の保存・継承・創造と更なる発展 Ⅲ-3-(2)	
事業内容	<p>1 県内の文化芸術団体等に対する取組支援 本県の多様で豊かな地域の伝統芸能や文化芸術等の文化資源を活用した文化芸術活動の持続的発展を図るため、文化専門人材の目利きのもと、県内文化芸術団体等による取組(①文化芸術団体等の組織力向上・基盤強化に資する取り組み、②文化芸術を次代に引き継ぐ新たな創造発信を伴う取り組み、③文化芸術を通じて地域の諸課題解決や活性化の促進等に寄与する取り組み)を公募、審査、採択し、支援を行う。</p> <p>2 文化芸術資源を活用する新たな取組の創出に向けた広報・相談</p> <p>3 文化芸術の振興に関する調査・プログラム構築</p>						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(令和5年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	85,983		92,306		81,683
		(b)予算現額	161,950		132,575		81,683
		(c)増減額(b-a)	75,967	0	40,269	0	0
		(d)前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	161,950	0	132,575	0	81,683
	B. 執行済額		145,287		125,584		74,499
	うち交付金充当額		116,230		100,467		59,599
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		89.7%	#DIV/0!	94.7%	#DIV/0!	91.2%
予算の状況の説明		<p>・予算額は旅費、委託料、補助金を計上。</p> <p>・執行率は91.2%であり、不要理由は旅費、委託料、補助金の執行残によるものであり、補助金部分の6,106千円が主である。</p>					
活動目標(指標)及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	補助事業採択数	目標	19件	19件	27件	22件	
		実績	21件	89件	63件	22件	
	文化芸術活動に関する相談件数	目標				100件	
		実績				148件	
	文化芸術人材バンクの構築	目標				1件	
実績					1件		
担い手育成プログラムの構築	目標				1件		
	実績				1件		
進捗状況説明	<p>・県内文化関係団体を対象に、公募の上、①文化芸術団体等の組織力向上・基盤強化に資する取組6件、②文化芸術を次代に引き継ぐ新たな創造発信を伴う取組11件、③文化芸術を通じて地域の諸課題解決や活性化の促進等に寄与する取組5件の合計22件を採択した。</p>						
成果目標(指標)及び達成状況	R4成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(〇〇年度)
	本事業により文化芸術活動数が前年度より増加した団体の割合	目標		37.5%	37.5%		
		実績		33.3%	50.0%		
	文化芸術活動数	目標				20件	
		実績				204件	
	文化芸術活動の享受者数	目標				2,300人	
		実績				26,297人	
	異分野連携活動数	目標				13件	
		実績				67件	
	本事業に対する応募件数	目標				80件	
		実績				52件	
	文化芸術人材バンクの構築	目標				1件	
		実績				1件	
担い手育成プログラムの構築	目標				1件		
	実績				1件		
達成状況説明	<p>① 文化芸術活動数は204件、文化芸術活動の享受者数は26,297人、異分野連携活動数は67件となり、いずれも目標を達成した。</p> <p>② 本事業に対する応募件数については、目標80件に対し、実績が52件と目標件数を達成できなかった。</p> <p>③ 文化芸術人材バンク及び担い手プログラムについては、調査及び構築を行った。</p>						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>① 沖縄県には歴史的・地理的な独自性による多様で豊かな文化資源がある一方で、伝統芸能の実演家やアーティストが活躍できる場が少なく、文化芸術創造活動を支える仕組みが十分とはいえないことから、文化芸術活動を支える仕組みを充実させる必要がある。</p> <p>② 文化芸術活動は社会全体で支えられ発展するものであるが、地域の多様な主体の参画を促すためには、県内文化芸術に対する関心や意識の一層の向上が求められる。</p>	<p>本県の多様で豊かな文化芸術を次代に引き継ぐとともに、県民が気軽に文化芸術に親しめる環境を創出し、文化芸術活動者に活動の場を提供することで、本県の伝統芸能や文化芸術といった文化資源を活用した文化芸術活動の持続的発展を図る必要がある。</p>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>① 引き続き、支援を必要とする文化芸術関係団体等へのハンズオン支援をおこなうとともに、文化芸術資源を活用する新たな取組の創出に向けた広報・相談等を行うことにより、伝統芸能の実演家やアーティスト等の文化芸術活動を支える仕組みを充実させる。</p> <p>② 県内アーティスト等の多様な活躍の場を設けるため文化芸術人材バンクの運用を開始する。また、文化芸術に携わる人材の育成を目的とする担い手育成講座を実施する。</p>		

<b>資金の流れ</b> (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)							
	総事業費	交付対象事業費	うち交付金 充当額	うち県 負担金	うち市町村 負担金	その他	交付対象外 経費
	74,499	74,499	59,599	14,900	0	0	0
<pre> graph LR     A[沖縄県 交付対象事業費 74,499千円] --&gt; B[委託料 34,605千円]     A --&gt; C[補助金 39,894千円]     B --&gt; D[公益財団法人 沖縄県文化振興会 34,605千円]     C --&gt; E[八重山縄花織協同組合 他21件 39,894千円]     </pre> <p>補助事業者の公募、審査委員会運営、事業者支援等にかかる業務委託</p> <p>県内文化芸術活動の持続的発展に資する取組に対する支援</p>							
資金の 使途の 流れ、 費目 点検 評価	評価	点 検 項 目		評 価 に 関 する 説 明			
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○公益財団法人沖縄県文化振興会は、他の文化関係機関との連携も視野に入れて県の文化行政施策を実行できる唯一の団体であり、選定は妥当であったと考える。			
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○受益者負担については交付要綱で補助率1年目9/10、2年目8/10、3年目7/10と定めており、妥当と判断している。			
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○費目・使途については事業を円滑に遂行するために必要な経費であったかを支出等に関する書類により確認、適正であった。			

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

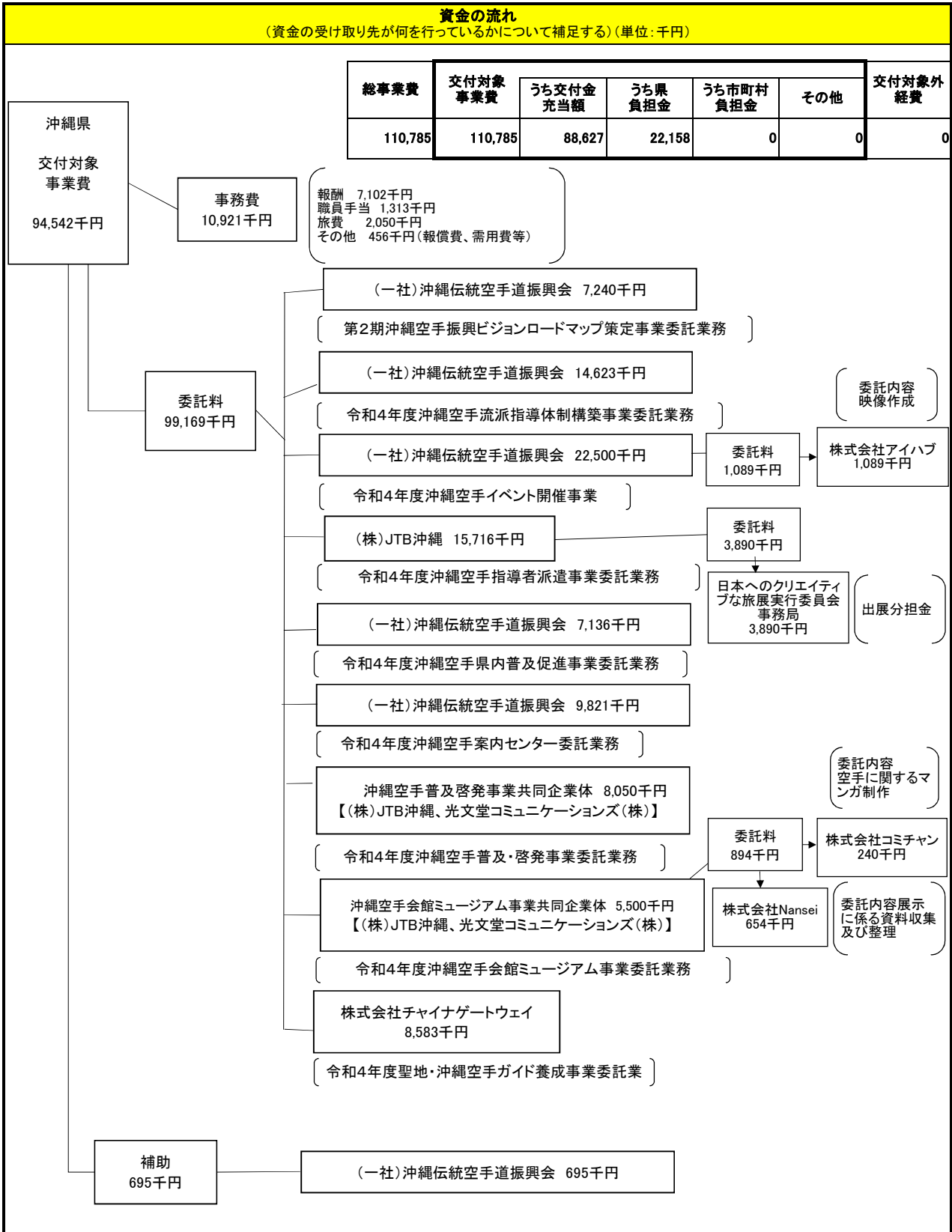
事業番号 ・事業名	163	沖縄県空手振興事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章—1—(4)—ウ			
担当部署名	文化観光スポーツ部空手振興課	事業実施 (予定)年度	H29 ~ R13 年度	沖縄空手の保存・継承・発展	Ⅲ—3—(3)		
事業内容	<p>①第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ策定事業 ロードマップを策定する。</p> <p>②沖縄空手流派指導体制構築事業 指導体系書の策定に係る検討の実施</p> <p>③沖縄空手イベント開催事業 空手関係団体と連携し、空手の日に奉納演武、記念演武祭を実施する。「最多人数による空手」への調整を行い、国内外へ「空手発祥の地 沖縄」を発信する。</p> <p>④沖縄空手指導者派遣事業 沖縄空手を保存・継承・発展させるため、空手指導者を国内外に派遣しセミナーを行うことで、指導者及び後継者の育成並びに国内外での 沖縄空手の普及・啓発を図る。</p> <p>⑤沖縄空手県内普及促進事業 空手指導者を県内各地に派遣する。</p> <p>⑥沖縄空手案内センター事業 沖縄空手に関する各種問合せに対応する窓口を開設</p> <p>⑦沖縄空手普及・啓発事業 県内空手家を国内外の物産展等のイベントへ派遣し、現地で空手演武を行う。</p> <p>⑧沖縄空手会館ミュージアム事業 収蔵資料整理件数14.4万件。沖縄空手の新資料の収集件数300件。展示用パネル製作 8枚。沖縄空手会館資料室ロビー展の開催年1 回(通年)。企画展の開催年1回(11月～3月)来館者数2,742人。巡回展開催1回(500人)</p> <p>⑨聖地・沖縄空手ガイド養成事業 空手ガイド養成のテキストを製作し、沖縄空手の歴史や特徴、ゆかり地などの養成講座を開設し、認定制度を設けて、空手ガイド認定証を交 付し、空手ツーリズムを確立する。</p> <p>⑩沖縄空手産業連携構築支援事業 ①ライセンスビジネス等調査検討、商標登録 ②一般向け映像コンテンツ制作</p>						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和5年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	109,532		191,023		122,023
		(b)予算現額	131,532		191,023		122,050
		(c)増減額(b-a)	22,000	0	0	0	27
		(d)前年度繰越額	0		0	75,980	
		A. 計(b+d)	131,532	0	191,023	75,980	122,050
	B. 執行済額		125,671		94,510	75,874	110,785
	うち交付金充当額		100,537		75,608	60,699	88,627
	C. 次年度繰越額		0		75,980		0
	執行率(%) (B/A)		95.5%	#DIV/0!	49.5%	99.9%	90.8%
予算の状況の説明		<p>令和3年度予算は、沖縄空手を振興するための事業実施に係る委託料、負担金の経費を計上したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、国内外への指導者派遣に係る事業が中止となり執行残が発生した。また、安全・ 安心な世界大会の開催が困難となったため、負担金については令和4年度へ繰り越すこととなった。繰越予算は、執行率が99.9%であり、概ね計画どおりに執行できた。 令和4年度予算は、執行率が90.8%であり、概ね計画どおりに執行できた。</p>					

活動目標 (指標) 及び進捗状況	R4活動目標(指標)	進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	①ロードマップの策定(1件)	目標				1件
		実績				1件
	②指導体系書策定1件	目標				1件
		実績				1件
	③奉納演武 1回 記念演武祭 1回 映像コンテンツ、1つ制作	目標				奉納演武 1回. 記念演武祭 1回 映像コンテンツ、1 つ制作
		実績				奉納演武 1回. 記念演武祭 1回 映像コンテンツ、1 つ制作
	④海外指導者派遣 1カ国 国内指導者派遣 1都道府県	目標				海外指導者派遣1 カ国、国内指導者 派遣1都道府県
		実績				海外指導者派遣1 カ国、国内指導者 派遣1都道府県
	⑤小中高校 3校 ニーズを有する団体 1団体	目標				小中高校 3校 ニーズを有する団 体 1団体
		実績				小中高校 7校 ニーズを有する団 体 3団体
	⑥コーディネーターの配置:3名	目標				コーディネーターの 配置:3名
		実績				コーディネーターの 配置:3名
	⑦県外イベント4名3回参加 意識調査1回	目標				県外イベント4名3 回参加 意識調査1回
		実績				県外イベント4名3 回参加 意識調査1回
	⑧ ・収蔵資料の整理:年間14.4万件 ・新たな空手に関する古新聞記事等の収集:300件 ・パネル製作:8枚 ・沖縄空手会館資料室の入館者数:2,742人 (対前年度9.7%増)	目標				・収蔵資料の整理:年 間14.4万件 ・新たな空手に関する 古新聞記事等の収 集:300件 ・パネル製作:8枚 ・沖縄空手会館資料 室の入館者数:2,742 人 (対前年度9.7%増)
		実績				・収蔵資料の整理:年 間14万件 ・新たな空手に関する 古新聞記事等の収 集:200件 ・パネル製作:8枚 ・沖縄空手会館資料 室の入館者数:5,387 人 (対前年度65.1%増)
	⑨空手ガイド養成テキストの製作。 ・心得、空手の歴史、特徴、体験、フィールド等 80時間以上のカリキュラムや講座の開設。 ・空手ガイド24人以上養成。	目標				カリキュラム80時間 以上、空手ガイド24 人以上
		実績				カリキュラム64時 間、空手ガイド31人

⑩ ・「沖縄空手」ロゴマーク商標登録1件 ・一般向け映像コンテンツ制作1件	目 標					①「沖縄空手」ロゴマーク商標登録1件 ②一般向け映像コンテンツ制作1件
	実 績					①「沖縄空手」ロゴマーク商標登録1件
進 捗 状 況 説 明	<p>①第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップを策定した。  ②県内若手指導者が空手入門者に指導する際の手引きとなる指導体系書を策定した。  ③空手の日において奉納演武及び記念演武祭を実施し、「空手の日」及び「空手発祥の地・沖縄」を広く国内外に発信した。また、演武祭で行われた演武を映像化し、世界に広く発信した。  ④海外1カ国(フランス/ユネスコ本部)、国内1箇所(東京都/富名腰義珍空手普及100周年)に空手指導者を派遣した。  ⑤県内小中高校7校、ニーズを有する3団体に空手指導者を派遣し、出前講座や実技指導等を行った。  ⑥沖縄空手案内センターにコーディネーター3名を配置した。  ⑦県内空手家を県外イベントへ4名3回派遣した。また、意識調査を1回行った。  ⑧収蔵資料の整理:年間14万件、新たな空手に関する古新聞記事等の収集:200件、パネル製作:8枚を実施し、沖縄空手会館資料室の入館者数:5,387人(対前年度65.1%増)を達成した。  ⑨カリキュラムは目標80時間以上に対し64時間の実施にとどまったが、空手ガイドの養成人数は実績が31人で目標を達成した。  ⑩「沖縄空手」ロゴマークが商標登録された。一般向け映像コンテンツ制作については、応募者から辞退があり、実施できなかった。</p>					
成 果 目 標 及 び 達 成 状 況	R4成果目標(指標)	基準値(〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(〇〇年度)
	①ロードマップを策定する。(1件)(R4)	目 標				1件策定
		実 績				1件策定
	②指導体系書の策定に参画した空手関係団体数3団体以上	目 標				3団体以上
		実 績				4団体
	③空手の日記念演武祭参加者6,000人 youtube再生数3万PV	目 標				・6,000人 ・再生数3万PV
		実 績				・1,951人 ・768回
	④、⑥空手関係来訪者数 10,500人	目 標				10,500人
		実 績				1,971人
	④、⑦県外における「空手発祥の地 沖縄」の認知率 49%	目 標				49%
		実 績				30.8%
	⑤出前講座等の参加者数:200人	目 標				200人
		実 績				759人
	⑧ ・沖縄空手会館収蔵資料の整理:14.4万点 ・新たな空手に関する古新聞記事等の収集:300件 ・パネル製作:8枚 ・企画展の立案・開催:年1回以上 ・利用者数延数2,742人(R2=2,500の対前年度比の割合増加) ・巡回展500人(1ヶ所) ※H25-R2の8年間の前年度比平均値9.7%	目 標				・沖縄空手会館収蔵資料の整理:14.4万点 ・新たな空手に関する古新聞記事等の収集:300件 ・パネル製作:8枚 ・企画展の立案・開催:年1回以上 ・利用者数延数2,742人(R2=2,500の対前年度比の割合増加) ・巡回展500人(1ヶ所) ※H25-R2の8年間の前年度比平均値9.7%
実 績					・沖縄空手会館収蔵資料の整理:14万点 ・新たな空手に関する古新聞記事等の収集:200件 ・パネル製作:6枚 ・企画展の立案・開催:年1回 ・利用者数延数5,387人(R2=2,500の対前年度比の割合増加) ・巡回展3,413人(1ヶ所)	

	⑨ ・空手ガイド40人の受講者の確保。 ・沖縄空手ガイドの検定合格者24人(60%)をめざす。(R4)	目標				①40人 ②24人(60%)	
		実績				①39人 ②31人(79%)	
	⑩産業連携によるライセンスを活用した商品・映像コンテンツ開発件数 1件	目標				産業連携によるライセンスを活用した商品・映像コンテンツ開発件数 1件	
		実績				産業連携によるライセンスを活用した商品1件	
達成状況説明	<p>①第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップを策定した。</p> <p>②指導体系書策定について、県内主要空手団体4団体の参画が得られた。</p> <p>③空手の日記念演武祭の参加者について、成果目標は6,000人だが、実績は1,951人で未達成となっている。Youtube再生回数について、成果目標は3万PVだが、動画の周知不足により、実績は768回で未達成となっている。目標達成のため、継続的に認知度向上の取り組みが必要である。</p> <p>④、⑥空手関係来訪者数10,500人については実績が1,971人で未達成となっている。新型コロナウイルス感染症の影響により国内外からの来沖が制限されたためである。</p> <p>④、⑦県外における「空手発祥の地沖縄」の認知率については、実績が30.8%であり目標を達成できていない。前年度と比較しても認知率は低下しており、継続的に認知度向上の取組が必要である。</p> <p>⑤県内の小中学校及び団体に対して空手指導者を派遣し、出前講座等へは計759人の参加となり目標を達成した。</p> <p>⑧沖縄空手会館の利用者数延数5,387人、巡回展3,413人(1ヶ所)であり、大幅に目標を達成している。</p> <p>⑨空手ガイド受講者(40人)については、面接試験の結果39人となったことから未達成となったが、沖縄空手ガイドの修了検定合格者(24人)については、実績が31人で目標を達成した。</p> <p>⑩産業連携によるライセンスを活用した商品開発については、「沖縄空手」ロゴマークが商標登録され、目標を達成した(ライセンス自体を商品化(有償使用)したため実績値1件と判定)。映像コンテンツ開発については、応募者から辞退があり実施できなかったため、令和5年度以降、引き続き取り組んでいく。</p>						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内道場では、門下生の人数が少ない、後継者がいない等が未だ課題となっており、新型コロナウイルスの影響等により県内道場の門下生数も減少傾向にある。</li> <li>・県外・海外からの空手関係者来訪数については、新型コロナウイルスの影響等により減少している。また、円安等の影響により海外派遣費用が高騰したため、国内派遣旅費を圧迫し、国内への指導者派遣人数を絞らざるを得なかった。</li> <li>・「空手発祥の地・沖縄」の認知度向上については、イベント出展による普及活動は出展地での増加には繋がるが、全国的な認知度向上にはつながらない。また、県内においても、中北部への派遣がなく、全県的な普及促進には至っていない。「空手発祥の地・沖縄」の認知度向上に向け、Youtubeにて空手の日の映像発信を行っているが、再生回数が伸び悩んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未だ残る課題やこれまでの新型コロナウイルスの影響等を踏まえ、より効果的な取組推進を図るため、新たな事業実施の方法を検討する必要がある。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響が収まりつつあるなか、イベント等の周知をより徹底して行い、参加人数を増やすことで、空手関係者来訪数や「空手発祥の地・沖縄」の認知度向上に繋がる。また、イベントに参加しない方へも認知度向上を図られるよう、普及方法を検討する必要がある。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・策定した第2期沖縄空手振興ビジョンロードマップ(令和5年度～令和9年度)に基づき、県・空手関係団体・経済界等が一体となって、引き続き必要な施策に取り組んでいく。</li> <li>・門下生数の減少や後継者不足の課題に対しては、引き続きイベントの開催や指導者派遣等に取り組む、空手に興味関心を持ってもらうだけでなく、指導者に対しても、指導体系書の活用や県内若手指導者向けの講習会を定期的に開催し、先人から受け継がれてきた精緻な技や精神性を保存し継承していく。</li> <li>・県外・海外からの空手関係者来訪数については、引き続き、沖縄空手会館の収蔵資料・企画展等の充実を図るとともに、沖縄空手案内センターや沖縄空手ガイドを活用し、来訪者数の増加を目指す。また、沖縄空手ガイドについては、英語以外の通訳案内士も対象とするほか、研修内容の理解度を向上させるため、予備試験を実施し各々の課題を認識させ、知識の定着を図る。</li> <li>・空手発祥の地・沖縄の発信と指導者育成のための海外・県外派遣の実施方法について、安定的な派遣人数を確保するため、海外・県外派遣の実施方法について、振興会と調整した新たな事業モデルを検討する。</li> <li>・「空手発祥の地・沖縄」の認知度向上については、拡散能力の高いSNS等を活用し、全国に向けて効果的に発信するほか、全県を対象に派遣募集を行いニーズを把握したうえで空手指導者の派遣を実施する。また、空手の日記念演武祭のイベント周知を徹底して行うとともに、映像の発信については、Youtubeだけでなく拡散能力の高いTwitter・フェイスブック等を活用する。</li> </ul>		



評価	点検項目	評価に関する説明	
資金の 用途の 流れ、 費目 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○沖縄伝統空手振興会は、県内空手界の統一組織であることから、効果的かつ効率的に業務を執行し事業の目的を達成することが可能な委託先として適切であった。</p> <p>○振興会以外への委託事業については、公募型プロポーザル方式を選択し、事業執行に適している企業体制、実績、技術等を勘案した上で委託先を選定しており、妥当であったと認識している。</p> <p>○費目、用途については、目的達成のために必要なものであるのかを事業検査時の支出に関する書類により確認し、適切であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	



## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

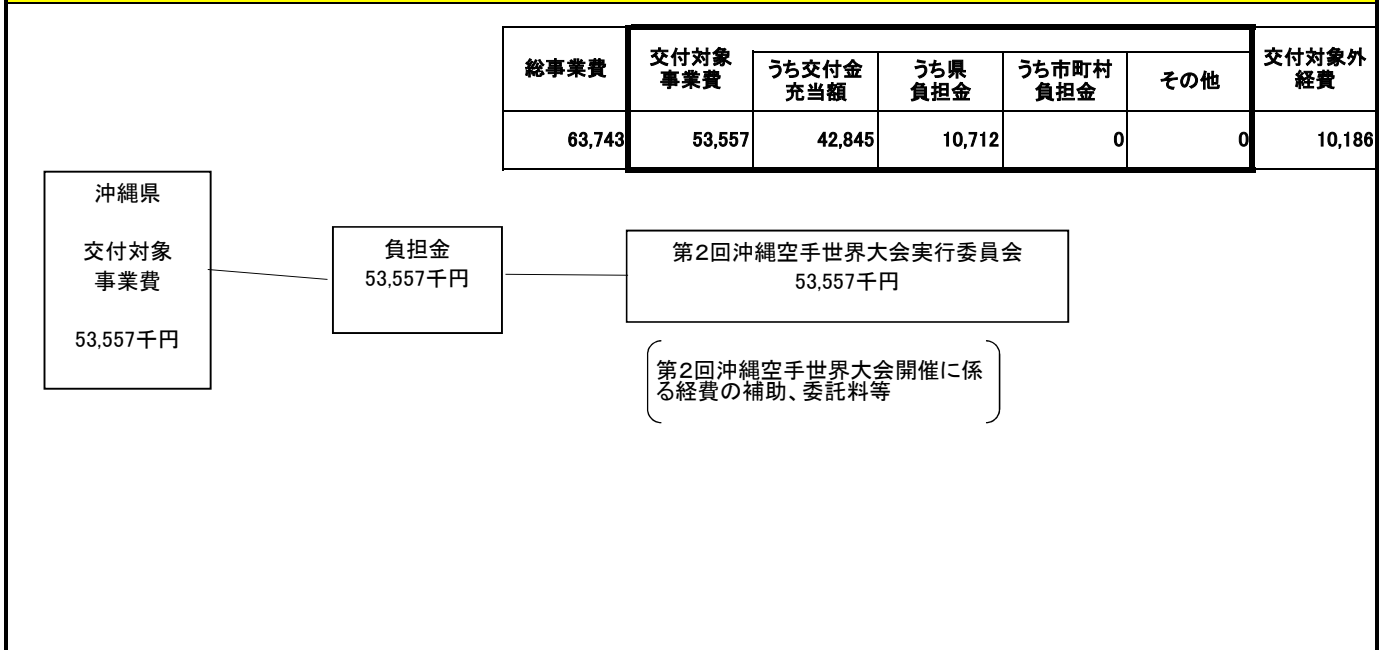
事業番号・事業名	164	沖縄空手世界大会開催事業		新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章—1—(4)—ウ—③		
担当部署名	文化観光スポーツ部空手振興課	事業実施(予定)年度	H29 ~ R13 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄空手世界大会の定期開催等を通じた国際交流		
事業内容	第2回沖縄空手世界大会の開催						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(令和5年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	0		0		53,614
		(b)予算現額	0		0		53,614
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額	0		0		0
		A. 計(b+d)	0	0	0	0	53,614
	B. 執行済額						53,557
	うち交付金充当額						42,845
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	99.9%
予算の状況の説明		<p>執行率が99.9%であり、概ね計画どおりに執行できた。          なお、当事業は、令和3年度までは沖縄空手振興事業の細事業であり、復帰周年事業や空手会館開館記念事業として単発で沖縄空手国際大会(対象年齢15歳以上)を開催していたが、令和4年度より「沖縄空手世界大会開催事業」として4年に1度の定期開催とすることとした。また、これまでの国際大会では対象となっていない6歳~14歳以下の大会として青少年空手世界大会も定期開催する。</p>					
活動目標(指標)及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	大会参加者数の増		目標				約1,600人
		実績				724人	
進捗状況説明		<p>競技大会参加者数1,600人の目標に対し、新型コロナウイルス感染症の影響で、海外・県外からの参加者が入国することが困難となり、目標を下回る724人の参加となった。</p>					
成果目標(指標)及び達成状況	R4成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(〇〇年度)
			目標				約1,600人
	大会参加者数		実績				724人
	達成状況説明		<p>競技大会参加者数1,600人の目標に対し、新型コロナウイルス感染症の影響で、海外・県外からの参加者が入国することが困難となり、目標を下回る724人の参加となった。</p>				

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、日本への入国制限措置が執られていたため、海外からの参加者が少なかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症の拡大防止に係る制限等については、国内外の感染状況や国の対策方針に合わせて緩和しつつ、参加者が安心して大会に出場できるような運営を行う必要がある。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響が収まりつつあるため、今後開催予定の世界大会においては、今回以上の大会参加者が見込まれることから、よりスムーズな大会運営の方法を検討する必要がある。</li> <li>・県民や空手関係者以外の方々への大会及び「空手発祥の地・沖縄」を周知し、県民をあげて大会の機運醸成を図る必要がある。</li> </ul>

**今後の取り組み方針**

- ・安心安全な大会運営を行うため、①大会参加者に基本的な感染症対策を周知、②大会参加者の連絡責任者の把握と連絡体制の構築、③海外からの参加者の受入責任者に対する必要な管理・支援についての周知などを図っていく。
- ・競技運営においては、各コートでの審判員の判断が重要であることから、審判技量の向上を図るため、審判講習会を複数回実施する。
- ・空手関係者以外の不特定多数へ向けた広報については、大会サイト及び大会SNSからの情報発信、オンライン広告や関連イベントなど、様々な広報・プロモーション方法を駆使し、大会の機運醸成を図っていく。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の 使途の 流れ、 費目、 点検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○支出先については、大会実行委員会を立ち上げ、当該実行委員会へ負担金として支出したことは妥当である</p> <p>○予算規模については、実行委員会非常勤職員の人員費で残予算が生じたものの、概ね適正規模であった。</p> <p>○費目、使途については、目的達成のために必要なものであるのかを実行委員会幹事2名による監査で確認し、適切であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	107	島工芸おきなわ販路拡大推進事業		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-エ-②		
					伝統工芸を活用した感性に働きかける魅力的なものづくり振興		
担当部署	ものづくり振興課	事業実施(予定)年度	R 4 ~ 8 年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(7)	
事業内容	沖縄独自の魅力を活かした工芸産業の活性化を図るため、別途実施している人材育成・商品開発等生産拡大支援と両輪で、出口戦略として工芸品等のPR・販売拡大を支援し、県内外需要の取り込みを促進する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度( 年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額					31,250
		(b)予算現額					31,250
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額					0
		A. 計(b+d)	0	0	0	0	31,250
	B. 執行済額						27,936
	うち交付金充当額						22,348
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	89.4%
予算の状況の説明		・予算額は工芸品等のPR・販売拡大業務の委託料、補助金、事務費等を計上したものである。 ・執行率は89.4%であり、執行残額は補助金確定後の実績の減によるものである。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	工芸品PR広報件数	目標				5件以上	
		実績				14件	
	販売促進事業支援件数	目標				10件以上	
実績					11件		
進捗状況説明	工芸品PR広報件数について、定期的に広報を行い、目標値を達成した。 販売促進支援件数について、活用を呼びかけ、目標値を達成した。						
成果目標(指標)及び達成状況	R4成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(R5年度)
	支援対象事業者の年間売上合計額	目標				200百万円	160百万円
		実績				確認中	
達成状況説明	決算が4月以降の事業者も多いことから、決算時期終了後に売上実績を確認したい。						

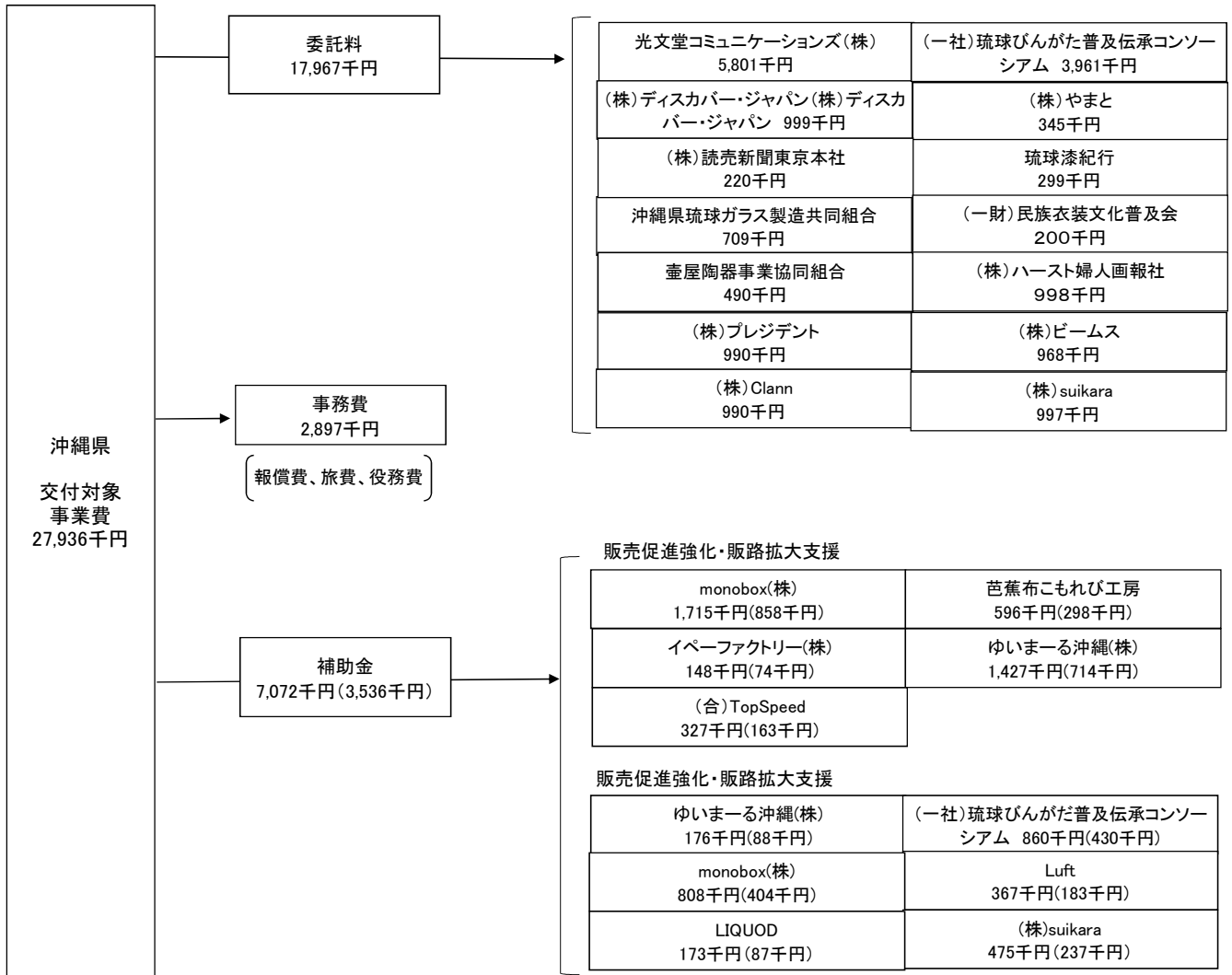
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>工芸品は高額あり、展示販売イベント等、作家との交流を通して納得したうえで購入するような商品である。新型コロナウイルス感染症の回復とともに工芸イベント等も再開し、観光客も増えてきている。</p>	<p>回復している販売機会を有効活用して、売上回復を図る必要がある。</p>

今後の取り組み方針

特に、補助メニューは補助事業者としても手ごたえがあり、さらなる効果拡大へ向けて調整を図っている。令和5年度以降は、コロナ回復後の観光需要を見込み、県内における観光消費拡大及び工芸産業活性化を図るため、民間主催の販売イベントに対し、観光客への告知や工芸品の魅力PRを行うことによって、集客及び購入につながる支援を行う。また、コロナ後は販売イベント等が増加することが予想されることから、より効果的に宣伝・普及ができるイベントを優先して、宣伝普及に取り組む。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
31,472	27,936	22,348	5,588	0	0	3,536



資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助事業者は、公募を実施した上で、審査委員会で事業の内容を審査し選定したため、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○委託事業者は、企画提案プロポーザルなど事業の内容によって選定したため、妥当であったと考える。企画提案プロポーザルを実施しなかった随意契約の委託事業者についても、少額かつ特定のイベントでのタイアップや特定の広告媒体へのタイアップ記事の作成等の業務の委託であり、妥当であったと考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業報告書等を検査し、適正である事を確認した。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

## 令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号 ・事業名	108	セルフプロデュース力強化工芸研修事業		新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(4)-エ-②		
					伝統工芸を活用した感性に働きかける魅力的なものづくりの振興		
担当部署名	ものづくり振興課	事業実施 (予定)年度	R4 ~ 8 年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-3-(2)	
事業内容	工芸事業者に対し、「自己プロデュース力」を強化する人材育成を実施する。PDCAサイクルの考え方のもと、2年を1単位とした人材育成を実施する。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(    年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他(    )						
予算額・ 執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額					12,500
		(b)予算現額					12,500
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額					
		A. 計(b+d)	0	0	0	0	12,500
	B. 執行済額						11,941
	うち交付金充当額						9,552
	C. 次年度繰越額				0	0	0
	執行率(%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	95.5%
予算の状況の説明		・予算額は人材育成に係る委託料、事務費等を計上したものである。 ・執行率は95.5%であり、執行残額は委託業務の旅費、直接執行の需用費等の効率化によるものである。					
活動目標 (指標) 及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	基礎研修12名の修了者数		目標			12名	
			実績			12名	
進捗 状 況 説 明	12名が所定のカリキュラムを修了した。PDCA分析では、自己評価と外部評価による定性的な評価、および設問に達成度を数値化した定量評価を行い、後者の達成度の平均値は72%となった。						
成果目標 (指標) 及び達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (〇〇年度)
	受講者7割以上の者が、受講前と比較して10%の生産額増		目標	-		7割	-
			実績	-		9.2割	-
	達成 状 況 説 明	・生産額が10%以上増加した割合は、目標値7割に対し9.2割となった。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
<b>取組の検証</b> ・募集定員12名に対し、27名の応募があり、織物、漆器、紅型、ガラスなど多様な分野の方を受け入れ、研修を実施した。 ・コロナ禍における対人の接触制限は、アクティブラーニング手法を重視している本事業の進め方に大きな影響があった。 ・上記の状況に対し、カリキュラムの具体的な進め方を再構築して、実施することにより、当初計画した内容、結果を得ることができた。	・受け入れた研修生は個々に基礎知識および経験の差があることから、設定カリキュラム以外でのフォローや補講が多く必要となった。 ・このことから、指導方法を再考し、幅広いレベルに対応する柔軟なカリキュラムの構築が必要である。
・事業は適切に執行され、当初目標を達成している。工芸の社における工芸事業者支援を見据え、カリキュラムの改善、改良を重ねていく。	

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th> <th>交付対象事業費</th> <th>うち交付金充当額</th> <th>うち県負担金</th> <th>うち市町村負担金</th> <th>その他</th> <th>交付対象外経費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">11,941</td> <td style="text-align: center;">11,941</td> <td style="text-align: center;">9,552</td> <td style="text-align: center;">2,389</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> </tbody> </table>	総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費	11,941	11,941	9,552	2,389	0	0	0					
総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費														
11,941	11,941	9,552	2,389	0	0	0														
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px;">                         沖縄県                          交付対象事業費                          11,941千円                          交付金充当額                          11,941千円                     </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px;">                         (委託料)                          11,927千円                     </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;">                         株式会社沖縄TLO                          [セルフプロデュース力強化工芸研修事業]                     </div>				<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px;">                         (事務費)                          14千円                     </div>														

資金の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の点検評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、企画提案プロポーザルによって選定したため、妥当であったと考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途については、事業報告書等を検査し、適正である事を確認した。
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	